

◆(渚上陽一君) ありがとうございました。

引き続き、さらなる交通安全の確保並びに渋滞緩和に御尽力を賜りますようよろしくお願いをいたします。

次にお尋ねいたしますのは、郡部の公的医療機関における医師不足の問題とその対策についてでございます。

本件に関しては、昨年6月議会において鬼海洋一議員が、また、一昨日は氷室雄一郎議員が質問され、健康福祉部長よりその対策に関する御答弁をいただいたところでございます。

しかしながら、ことしになっても、郡部の公立病院においては、改善の兆しは見られず、逆に事態は悪化する一方であります。

報道によれば、牛深市民病院の内科常勤医4人全員が辞表を提出、4月以降内科の診療ができなくなるおそれが出てきた、熊本こころの医療センターでは、常勤医4人の退職により、4月以降老人治療病棟を休止するために、入院患者を民間病院に転院させる、玉名中央病院においては、麻酔医がいなくなるため、4月から外科手術ができなくなるなどと、人の命を預かる医療の世界のこととは思えない極めて異常な事態が相次いでおります。

舛添厚生労働大臣が、地方の医師不足は緊急事態を宣言しないといけなような状況だと言われたように、一般内科や老人医療においてまでこうしたゆゆしい状況が生じるということは、健康保険制度のもとで保障されてきた国民のひとしく医療を受ける権利が損なわれ始めていると感じざるを得ません。

県を初め関係機関の御努力にもかかわらず、状況が悪化の一途をたどる中で、医師確保にどう取り組んでいかれるのか、さきの3つの病院の例も踏まえながら、お答えをいただきたいと存じます。

また、ただいまの問題に加え、産科、小児科の医師不足も深刻さを増すばかりであることは御承知のとおりでございます。

私の地元の山鹿市立病院におきましても、昨年7月から、常勤の小児科医が不在となったため入院や救急対応ができず、小さなお子さんをお持ちの御家庭では、大変不安な日々を過ごしておられます。

その一方で、昨年末、県が現在策定中の第5次保健医療計画の中で、県下を4つの小児医療圏に分けた上で、それぞれに重点化施設と強化施設を配置するとの報道がなされ、山鹿市民の間に動揺が広がりました。

この問題は、山鹿市のみならず、郡部に共通する極めて深刻かつ緊急の問題であります。その改善のために第一にとられるべき施策は、常勤小児科医が不在の病院、地域を早急になくすことではないのでしょうか。保健医療計画の検討内容を踏まえ、お考えをお聞かせ願います。

以上2点について、健康福祉部長にお伺いいたします。

〔健康福祉部長岩下直昭君登壇〕